

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

鹿角市教育委員会

I 実施の状況

1. 調査の目的

- (1) 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することにより、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 各教育委員会、学校等が、(1)及び(2)の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施対象学年…小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査
 - 小学校：国語、算数
 - 中学校：国語、数学
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

4. 実施期日…令和3年5月27日（木）

II 教科に関する調査の結果（「全国」は公立学校を対象にした結果）

1 教科別平均正答率について（％）

小学6年生		国語 (14問)	算数 (16問)		平 均
全国		64.7	70.2		67.5
県	平 均	71.0	72.0		71.5
	全国比	+6.3	+1.8		+4.0
市	平 均	69.0	71.0		70.0
	全国比	+4.3	+0.8		+2.5
	全県比	-2.0	-1.0		-1.5

○概要

小学校では、例年同様全国平均正答率を上回っている。

中学校では、2教科ともに、平均正答率が全国平均を6.0ポイント以上、上回ったほか、県の平均正答率と比較しても、3.0ポイント以上、上回っている。

●課題となる点

小学校では、県の平均正答率を国語で2.0ポイント、算数で1.0ポイント下回っている。

中学3年生		国語 (14問)	数学 (16問)	英語	平 均
全国		64.6	57.2	(R3は 実施対象 教科外)	60.9
県	平 均	68.0	60.0		64.0
	全国比	+3.4	+2.8		+3.1
市	平 均	71.0	64.0		67.5
	全国比	+6.4	+6.8		+6.6
	全県比	+3.0	+4.0		+3.5

2 領域別の平均正答率について (%)

小学校 国語	鹿角市	秋田県	全国
話す・聞く	77.4	82.6	77.8
書くこと	65.4	69.4	60.7
読むこと	49.9	51.8	47.2
言語事項*1	75.4	75.1	68.3
小学校 算数	鹿角市	秋田県	全国
数と計算	67.3	68.1	63.1
図形	58.3	57.0	57.9
測定	77.2	77.5	74.8
変化と関係	75.1	75.7	75.9
データの活用	76.2	79.0	76.0

*1…言葉の特徴や使い方に関する事項

中学校 国語	鹿角市	秋田県	全国
話す・聞く	86.0	82.4	79.8
書くこと	63.4	61.1	57.1
読むこと	55.0	52.2	48.5
言語事項*2	81.4	78.6	75.1
中学校 数学	鹿角市	秋田県	全国
数と式	72.1	68.1	64.9
図形	58.5	53.8	51.4
関数	67.4	61.8	56.4
資料の活用	58.5	56.6	53.8

*2…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○概要

小学校では、国語の「話す・聞く」と算数の「変化と関係」以外の領域で、全国の平均正答率を上回っている。また、国語の「言語事項」及び算数の「図形」領域では、県の平均も上回っている。中学校では、2教科すべての領域で、全国及び県の平均正答率を上回っている。

●課題となる点

小学校では、「話す・聞く」「書くこと」「読むこと」の3領域で県の平均正答率を下回っている。特に、国語の「話す・聞く」領域では、県の平均を5.2ポイント下回り、全国平均と比較しても下回っている。中学校では、課題となる点は見られなかった。

Ⅲ 質問紙調査の結果

○概要

小・中どちらも、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている項目が多く、従来通り、児童生徒に望ましい生活習慣や学習習慣の定着が図られ、豊かな人間性等が育まれている状況を示す結果となって表れている。

一方で小・中学校共通して全国平均を下回っているものとしては、携帯電話やスマートフォン、コンピュータ利用時の約束の順守が挙げられる。この結果を含め、ICT利用に関するデータ及び鹿角市教育委員会の施策である「特色ある学校づくり推進事業」、「主体的・対話的で深い学び」の視点等と関連のある個別のデータについては、以下のとおりである。

1 特色ある学校づくり支援事業との関わり

(1) 「将来の夢や目標を持っている」 (「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)

○小学校 90.1% (県 87.7% 国 80.3%) ○中学校 79.7% (県 77.4% 国 68.6%)

(2) 「今住んでいる地域の行事に参加している」 (同上)

○小学校 80.8% (県 73.7% 国 58.1%) ○中学校 63.8% (県 55.7% 国 43.7%)

(3) 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」 (同上)

○小学校 76.0% (県 67.5% 国 52.4%) ○中学校 60.3% (県 62.7% 国 43.8%)

2 「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する状況

(1) 「学級の友達(生徒)との間で自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」)

○小学校 88.0%	○中学校 89.0%
(県 86.7% 国 78.8%)	(県 87.2% 国 77.8%)

(2) 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」(同上)

○小学校 88.0%	○中学校 85.4%
(県 86.5% 国 78.2%)	(県 87.8% 国 81.0%)

3 児童生徒の自己肯定感に関する状況

(1) 「自分には、よいところがあると思いますか」(同上)

○小学校 82.0 %	○中学校 77.6%
(県 84.0% 国 76.6%)	(県 82.9% 国 76.2%)

4 ICT利用やメディアに関する状況

(1) 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

(「役に立つと思う」+「どちらかといえば役に立つと思う」)

○小学校 97.0%	○中学校 97.3%
(県 96.3% 国 94.5%)	(県 96.0% 国 93.2%)

(2) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。(「きちんと守っている」+「だいたい守っている」)

○小学校 65.4%	○中学校 58.2%
(県 71.5% 国 70.1%)	(県 71.5% 国 67.9%)

IV 今後の市教委の施策の方向性

これまで取り組んできている施策が、おおむね良好な成果につながっている。今後も継続してきた以下の事業の詳細について見直しを図りながら、一層の充実を図っていく。

また、メディアの適切な利用に関することについては、これまで通り各校へ情報モラル教育の実施やと家庭との連携を図るようお願いするだけでなく、今年度から1人1台端末が導入されたことを機に市が作成した「タブレット活用のルール」を繰り返し指導していく。

- ・児童生徒学力向上対策事業(教科別学力検査、学習集団アセスメント hyper-Q U検査)
- ・外国語指導充実事業
- ・特色ある学校づくり推進事業
- ・ふるさと・キャリア教育推進事業
- ・ふるさとかづの絆プラン事業
- ・ICT活用教育事業